



えびすしゃ 恵美須社

祭神 ことしろぬしのかみ 事代主神 おおわたつみのかみ 大綿津見神

坂町史等によると、弘治^{こうじ}2（1556）年に宮崎沖海浜に航海漁業の守り神、商売繁盛の神として勧請され、慶長^{けいちょう}2（1597）年には旧役場付近の地（総頭川下流にできた中州^{なかつ}の島^{ほくら}）に祠^{まつ}を建てて祀りました。

寛文^{かんぶん}2（1662）年、祠を社殿に建て替え、この時、横浜地区の恵比須社がこの神社の分社として勧請され、明和^{めいわ}4（1767）年に再度再建されることになりました。その後大正^{たいしょう}4（1915）年までの記録はありませんが、文化^{ぶんか}11（1814）年に宮崎新開が拓かれたことで、八幡神社前の干潟が干拓され馬場道が造られました。これにより恵美須社を八幡神社の御旅所^{みこし}として御輿^{みこし}が来社して祭事が行われていたようです。

大正4年に再建された際の棟札^{むなふだ}によると、この社^{やしろ}は坂全体の社であったと思われます。また、昭和初めころには商店主が中心になって11月にはえびす講が行われるなど賑わいがありました。

昭和25（1950）年役場の新築工事のため、この地を離れ昭和39（1964）年に現在地^{せんざ}に遷座されました。その後、平成9（1997）年に地区の世話人が募金を集め、拝殿^{はいでん}の改修を完了しました。

八幡神社の秋祭りには平成28（2016）年に奉納された子供御輿が御旅所として来社しています。また、当社で森浜屋台^{ひきぶね}と横浜曳船の互いに協力を誓う目録交換と寄進^{きしん}の安全を願う祭事を行っています。

